

論 文 内 容 要 旨

題目 Complementary and alternative medicines chosen for specific health problems: Internet survey using the I-CAM-Q in Japan
A STROBE-compliant cross-sectional study
(種々の健康問題に対して選択された補完代替医療: 日本における I-CAM-Q を用いたインターネット調査: STROBE に準拠した横断的研究)

著者 Ryo Tabata, Harutaka Yamaguchi, Yoshihiro Ookura, Kenji Tani

令和4年10月14日発行 Medicine 第101巻 第41号 e31098 に発表済
DOI:10.1097/MD.00000000000031098

内容要旨

補完代替医療(complementary and alternative medicine; CAM)とは現代西洋医学以外のすべてのものを指す。それには、古くから世界各国で行われている民族療法から最新の健康補助食品あるいは先進機器を用いた治療法まで含まれる。そういった CAM の使用は世界の多くの地域に広まり増加しているが、その詳細については不明な点が多い。CAM をより深く理解することによって、健康問題に取り組む際において通常の一般的医療に CAM を適切に取り入れることができる可能性がある。CAM は全世界で利用されており、その有用性について様々な研究が行われているが、その研究結果は同じ国や地域で行われている場合でも調査方法や質問紙票の内容に影響を受ける。そこで、2006年に開催された CAM に関する国際ワークショップにおいて、International Questionnaire to Measure Use of CAM (I-CAM-Q) と名付けられた国際的に標準化された質問紙票が作成され、以後の CAM に関する研究に用いられている。日本ではこれまでに I-CAM-Q を用いた報告が 4 件みられるが、人々の健康問題と具体的な自助努力の CAM との関係を調査した報告はみられない。そこで本研究では I-CAM-Q を用いてこのテーマに関する日本における調査を実施した。

アンケート調査は e-mail を用いて 20 歳以上の Japan Association of Medical Body Contouring の会員 869 人に送付し、164 人から回答が得られた (返答率 18.9%)。CAM の調査としては I-CAM-Q を用いたデータ収集を行った。その結果、CAM と特定の健康問題との間にいくつかの関連が明らかになった。筋骨格系に問題のある人あるいは心臓に問題のある人は湿布を使用する人が多かった (筋骨格系: OR=4.78、95% CI;1.79-12.79, $p=0.001$) (心臓: OR=6.80、95%

様式(8)

CI;1.57-29.38, $p=0.017$)。呼吸器系に問題を抱えた人ではヨガ・太極拳・気功を実践している人が多かった (OR=5.46、95% CI;1.22-24.42, $p=0.045$)。消化器系に問題を抱えている人は、ヨガ・太極拳・気功、あるいはアロマテラピーを利用する人が多かった (ヨガ・太極拳・気功: OR=4.46、95% CI;1.50-13.20, $p=0.010$) (アロマテラピー: OR=2.69、95% CI;1.13-6.40, $p=0.022$)。神経系に問題を抱えた人はアロマテラピーを行っている人が多かった (OR=8.33、95% CI;1.97-35.25, $p=0.004$)。消化器系に問題を抱えた人は温泉療法を利用する人が少なかった ($p=0.016$)。皮膚系に問題を抱えた人は運動療法を行っている人が少なかった (OR=0.27、95% CI;0.09-0.84, $p=0.017$)。また、本研究では I-CAM-Q に基づいた調査を行ったことで、利用している CAM の目的や有用性、さまざまな医療に対する意識も明らかにすることができた。健康問題に関しては、医師に相談する割合がマッサージ師や鍼灸師、柔道整復師といった他の職種に相談する割合より多かった (医師 43.3%、マッサージ師 17.7%、鍼灸師 12.2%、柔道整復師 11.0%)。しかし、健康上の問題を相談することの有用性に関しては、医師よりもマッサージ師、柔道整復師、鍼灸師などの他職種に対しての方が有用であると回答する割合が高かった (医師 25.4%、マッサージ師 41.4%、鍼灸師 65.0%、柔道整復師 52.6%)。

本研究は、国際的に標準化された CAM の質問紙票である I-CAM-Q を用いて日本における人々の健康問題と具体的な自助努力の CAM との関係を調査した初めての研究である。CAM についての正しい情報提供のために、医療者向け、あるいは一般人向けの CAM のデータベースを作成し、公開していくことは重要である。そのためには CAM の現状を把握し、人々の間で使用方法や頻度を評価することが大切である。本研究の結果は、医療従事者が様々な健康問題に対処するための CAM の種類を適切に選択する際の知見となるとともに、健康問題を抱えた人が様々な職種の医療従事者に何を求めているかを知るための手がかりとなる可能性が示唆された。